

(令和3年 1月18日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(決算短信を読む・その1ー利益変動要因)

適時開示は「投資判断に重要な情報」、言い換えれば、投資家にとって知っていなければならない情報となります。適時開示の「決算短信」には、四半期毎の決算状況、その後(当該決算期)の業績見通しなどが開示されており、加えて貸借対照表、損益計算書などの財務諸表も開示されるのでROEなど財務諸比率の計算も可能です。また、決算短信との関連で言えば別途開示される「業績予想の修正」も見逃せません。

決算短信を読む、まず「利益変動要因」から。個別銘柄の業績をみる場合、単に〇〇利益を見るだけでは十分ではありません。最近、新型コロナの影響で助成金や給付金などが計上されるケースがあるので尚更です。決算短信開示される当該期の売上高、売上総利益、営業利益、経常利益など前年同期比を含めて利益の変動のパターンを確認します。下表には、売上、売上総利益、営業利益の増・減組み合わせパターンを上げていますが、各パターンが想定される「利益変動要因」の第一感は如何でしょうか。

売上高	売上総利益	営業利益	想定される状況
	増 益	増 益	パターン1
増 収		減 益	パターン2
	減 益	増 益	パターン3
		減 益	パターン4
	増 益	増 益	パターン5
減 収		減 益	パターン6
	減 益	増 益	パターン7
		減 益	パターン8

次に添付資料の「当四半期決算に関する定性的情報」。ここが重要、経営成績に関する説明部分では、部門別の状況を詳しく説明している企業が多く、詳細に業況を知ることが出来ます。ここでは業界動向や製品知識が必要になりますが、基本定性情報。数多くの決算短信を読むことで、会社、業界、製品・サービス等の知識を修得することができるので、おもしろくなるはず。利益変動要因も明確に把握できるようになります。また業績予想の記載があり、財務諸表も掲載されています。中には、知りたい情報を得ることができないケースもありますが、その時は財務諸表を読むことが優先と思います。